

# かざぐるま

2012年 4月発行



平素より、地域医療機関の皆様には大変お世話になっております。  
市立札幌病院は新しい病院事業管理者のもとに、平成24年度をスタート  
いたしました。  
今回、「かざぐるま 臨時号」を発刊し、皆様にご挨拶を申し上げます。  
どうぞよろしくお願いいたします。

## この度、病院事業管理者・病院長に就任するにあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

市立札幌病院は永年札幌市内の基幹病院として、市民の皆様の要望に応え、良質で高度な医療の提供を目指してまいりました。この間、救命救急センターを中心とした急性期医療や、総合周産期母子医療センターの指定とNICUの増床を行い新生児・周産期医療の充実を図ってまいりました。また、国のがん対策としてがん診療連携拠点病院の指定も受け、多くの悪性腫瘍患者さんの治療や緩和医療にも取り組んでおります。さらに本年4月には精神医療センターを開設し、精神科救急や身体合併症を有する精神疾患患者さんの治療にあたってまいります。あらゆる疾患に幅広く対応するため、最新の医療機器（2011年には320列CTを、そして2012年には強度変調放射線治療装置の導入）も整え、常に第一線で市民の皆様の健康と医療の確保に努力しております。

当院は、札幌圏のみならず北海道全体の高度で専門性の高い医療を提供する基幹病院として重要な役割を担っています。そのため市民の生活圏にある病院や診療所と緊密な医療連携を結び、身近な医療は地域の医療機関で、急性期・高度医療を必要とするものは市立札幌病院が担うという診療機能の分担や医療資源の有効活用を行う地域完結型医療システムの確立を図っています。多

札幌市病院事業管理者  
市立札幌病院長

とがし まさき  
富樫 正樹



くの医療スタッフや機器が揃っているとはいえ全ての疾患に対応可能なわけではなく、かつ無制限に受け入れては急性期病院としての使命が果たせなくなります。その解決策として地域の医療機関との協力・連携関係が重要と認識しております。

私は、地域連携に最も大切なことは、お互いの医療機関が信頼しあえること（安心して患者を紹介し、また受け入れること）、患者さんが納得・理解できることの2つであると感じております。つまり、医療機関相互、また医療者と患者の「相互信頼関係」を構築・継続維持していくことが重要と考えております。そのため市民や連携医療機関の皆様から信頼していただける医療機関・医療者となるよう職員一同研鑽してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 副院長就任 ご挨拶

このたび市立札幌病院副院長を命ぜられました、泌尿器科の関と申します。

責任の重大さに押しつぶされそうですが、指名された以上は精一杯職責を全うするつもりでおります。どうぞ、よろしくお付き合いのほどお願いいたします。

私のプロフィールを紹介します。私は1954年、大分県別府市に生まれました。実家は映画館を経営していたので幼少時はよく映画を見て育ちました。「秦の始皇帝」や「釈迦」などの大映の映画を見て育ちました。市川雷蔵のファンでした。忍びの者や、陸軍中野学校などが記憶に残っています。高校を卒業するまで大分で過ごしました。中学校時代は野球部に所属しており、県大会予選決勝に行けたのが最高成績でした。高校時代は所属する部はなかったのですが、友人が柔道部でしたので、自由に柔道場に入り練習していました。寒稽古の練習の後に食べた「ぜんざい」がすごくおいしかったのを鮮明に記憶しています。卒業後1年間東京で浪人をして、1973年に北海道大学に入学しました。あまり出来のよい学生ではなかったのですが、なぜか友人には恵まれて、留年せずに卒業できました。1979年に卒業して、当時辻教授が主宰されていた泌尿器科学教室に入局しました。その後、道内の関連病院を転々としながら、泌尿器科の修練を積み1990年に市立釧路総合病院泌尿器科部長に就任しました。釧路では後輩とともに泌尿器科手術を数多く手がけ、1992年に北海道大学医学部付属病院講師に就任しました。当時は小柳教授が教室を主宰されており、数多くの複雑な泌尿器手術を経験しました。また、世界各国の著

名な泌尿器科医と接触することも出来ました。その中でも、腎血管外科領域では当時世界的な権威であったA. C. Novic 先生と約1週間札幌市内で行動をともにさせていただく機会を得ました。貴重な体験でした。1997年に手稲溪仁会病院腎移植科部長を経て、1999年から市立札幌病院勤務となりました。

当院に移ってからも手術中心の泌尿器科治療を進めてきました。現在腎臓移植外科とも併せて、年間約1000件近くの手術を行っております。また、学会発表や論文発表も多数行い、その業績はInternet上の市立札幌病院Home Pageを見ていただくと分かると思います。医師になって30年以上経過しておりますが、一貫して手術中心の治療を心がけてきました。

このたび副院長を拝命しましたが、この手術中心のスタイルは変えずに頑張りたいと考えています。同時に、地域連携センターのセンター長も任されましたので、今後地域連携も是非進めていきたいと考えています。皆様のご支援、ご指導を得て進めて参りたいと考えております。連携先との顔の見えるつきあいを考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

副院長

せき とし もり  
関 利盛



## 市立札幌病院

### 基本理念

市立札幌病院は、すべての患者さんに対してその人格・信条を尊重し、つねに“やさしさ”を持って診療に専心する。

### 運営方針

市立札幌病院は、基本理念をもとに次の運営方針によって市民が安心して生活が出来る都市づくりに寄与する。

1. 高度・特殊・先進医療の技術向上を図り、かつ後進の教育・研修に努める。
2. 地域の医療機関との連携を強化して、地域医療の向上に努め、また国内外の医療機関との交流を盛んにし、北の拠点都市づくりに貢献する。
3. 自治体病院として、経済性と公共性をともに発揮することに努め、かつ病院職員としての誇りとよこごびを持って明るく健全な病院づくりを目指す。



## 理事就任 ご挨拶

このたび理事を拝命しました。昨今の厳しい医療を取り巻く環境の中で、より多くの役割を求められ身の引き締まる思いです。

当院は急性期病院として連携を重視しておりますが、更なる連携が必要です。すなわち「入院が必要であれば市立病院へ、落ち着いた際には地域の医療機関へ」を進めて、当院が名実ともに地域支援病院となる事が求められます。

私は父が国鉄勤務でしたが、札幌生まれの札幌育ちで、医師になってから帯広と北見への出張と米国留学以外はずっと札幌を離れた事はありません。ただ、札幌の東半分での生活が長く、南や西はよくわからず、ナビの無い車では迷子になります。

私の担当はリウマチ科と血液内科です。特に興味があるのは全身性エリテマトーデスなどの入院を要する膠原

病です。

しかし、科名をリウマチ科としてから関節リウマチ以外の膠原病の新患が少なく、また、公的機関からリウマチ科なのに何故〇〇病を診るのかなどという質問状をいただき、悲しい思いをしています。ただ、リウマチ科は膠原病を診療する標榜科として世界中で認められており、当面はこのままの予定です。リウマチ科は人員2名ですので、仕事がさらに増える事が予想される中、心身ともに健康でいきたいと思います。よろしくお願いたします。

理事

むかい まさや  
向井 正也



## 新任医師紹介

### 〈循環器内科〉

部長 甲谷 哲郎(こうや てつろう)  
日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、  
日本薬理学会認定医  
専門分野：虚血性心疾患、心不全、高血圧  
医師 高橋 雅之(たかはし まさゆき)

### 〈消化器内科〉

医長 工藤 俊彦(くどう たかひこ)  
医師 小池 祐太(こいけ ゆうた)

### 〈血液内科〉

医師 笠原 郁美(かさばら いくみ)

### 〈精神科〉

医師 白井 康之(しらい やすゆき)  
医師 岩田 愛雄(いわた よしお)  
医師 若槻 百美(わかつき ゆみ)  
医師 菊地 未紗子(きくち みさこ)

### 〈小児科〉

医長 齋田 吉伯(さいた よしのり)

### 〈外科〉

医師 深作 慶友(ふかさく やすとも)

### 〈呼吸器外科〉

医長 櫻庭 幹(さくらば もとき)

### 〈心臓血管外科〉

副医長 宇塚 武司(うづか たけし)

### 〈皮膚科〉

副医長 菊地 一博(きくち かずひろ)  
医師 古口 華子(こぐち はなこ)

### 〈泌尿器科〉

副部長 田中 博(たなか ひろし)  
副医長 中村 美智子(なかむら みちこ)  
医師 千葉 博基(ちば ひろき)  
医師 川口 愛(かわぐち あい)

### 〈腎臓移植外科〉

副医長 福澤 信之(ふくざわ のぶゆき)

### 〈産婦人科〉

副部長 菅原 照夫(すがわら てるお)  
医師 渡部 佐和子(わたなべ さわこ)

### 〈耳鼻咽喉科・甲状腺外科〉

副部長 原 敏浩(はら としひろ)  
副医長 瀧 重成(たき しげなり)  
医師 中 蘆 彬(なかその あきら)

### 〈放射線診断科〉

医師 長谷川 悠(はせがわ ゆう)  
医師 吉野 裕紀(よしの ゆうき)  
医師 原田 八重(はらだ やえ)

### 〈麻酔科〉

医師 端崎 歩(はなざき あゆみ)

### 〈病理診断科〉

医師 伊丹 弘恵(いたみ ひろえ)

### 〈救命救急センター〉

医師 松田 知倫(まつだ ともみち)  
医師 方波見 謙一(かたばみ けんいち)  
医師 半田 つばさ(はんだ つばさ)  
医師 三田 法子(みた のりこ)

### 〈整形外科〉

医師 浅野 祐一(あさの ゆういち)

### 〈リウマチ科〉

医師 神田 真聡(かんだ まさとし)

## 非常勤嘱託医師

〈麻酔科〉 大塚 仁美 (おおつか ひとみ)

〈病理診断科〉 直 亨 則 (なお ながのり)

〈形成外科〉 吉田 哲 憲 (よしだ てつり) 小林 博 子 (こばやし ひろこ)



## 臨床研修医

| 年次                | 氏名                 | 職     | 診療科     |
|-------------------|--------------------|-------|---------|
| 1年次               | 板谷 一史 (いたや かずふみ)   | 臨床研修医 | ローテーション |
|                   | 打浪 雄介 (うちなみ ゆうすけ)  |       |         |
|                   | 大島 由佳 (おおしま ゆか)    |       |         |
|                   | 加藤 喜哉 (かとう よしや)    |       |         |
|                   | 佐藤 智香 (さとう ちか)     |       |         |
|                   | 白枝 友子 (しろえだ ともこ)   |       |         |
|                   | 鈴木 脩斗 (すずき ゆうと)    |       |         |
|                   | 曾根 孝之 (そね たかゆき)    |       |         |
|                   | 千田 圭悟 (ちだ けいご)     |       |         |
|                   | 中山 加奈子 (なかやま かなこ)  |       |         |
|                   | 細口 翔平 (ほそぐち しょうへい) |       |         |
|                   | 三浦 隆洋 (みうら たかひろ)   |       |         |
|                   | 山内 彩記子 (やまうち さきこ)  |       |         |
|                   | 菅原 基史 (すがわら もとし)   |       |         |
| 椎谷 洋彦 (しいや はるひこ)  |                    |       |         |
| 中村 一仁 (なかむら かずひと) | 歯科口腔外科             |       |         |
| 2年次               | 阿部 早和子 (あべ さわこ)    | 臨床研修医 | ローテーション |
|                   | 表 和 徳 (おもて かずのり)   |       |         |
|                   | 高橋 宏 典 (たかはし ひろふみ) |       |         |
|                   | 山梨 克 真 (やまなし かつま)  |       |         |

市立札幌病院ホームページもご利用ください。 <http://www.city.sapporo.jp/hospital/>

### 編集・発行

市立札幌病院 地域連携センター運営委員会  
 (事務局：札幌市病院局 地域連携センター)  
 〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目  
 電話 代表 (011) 726-2211  
 FAX (011) 726-7928



さっぽろ市  
03-N05-12-289  
24-3-150